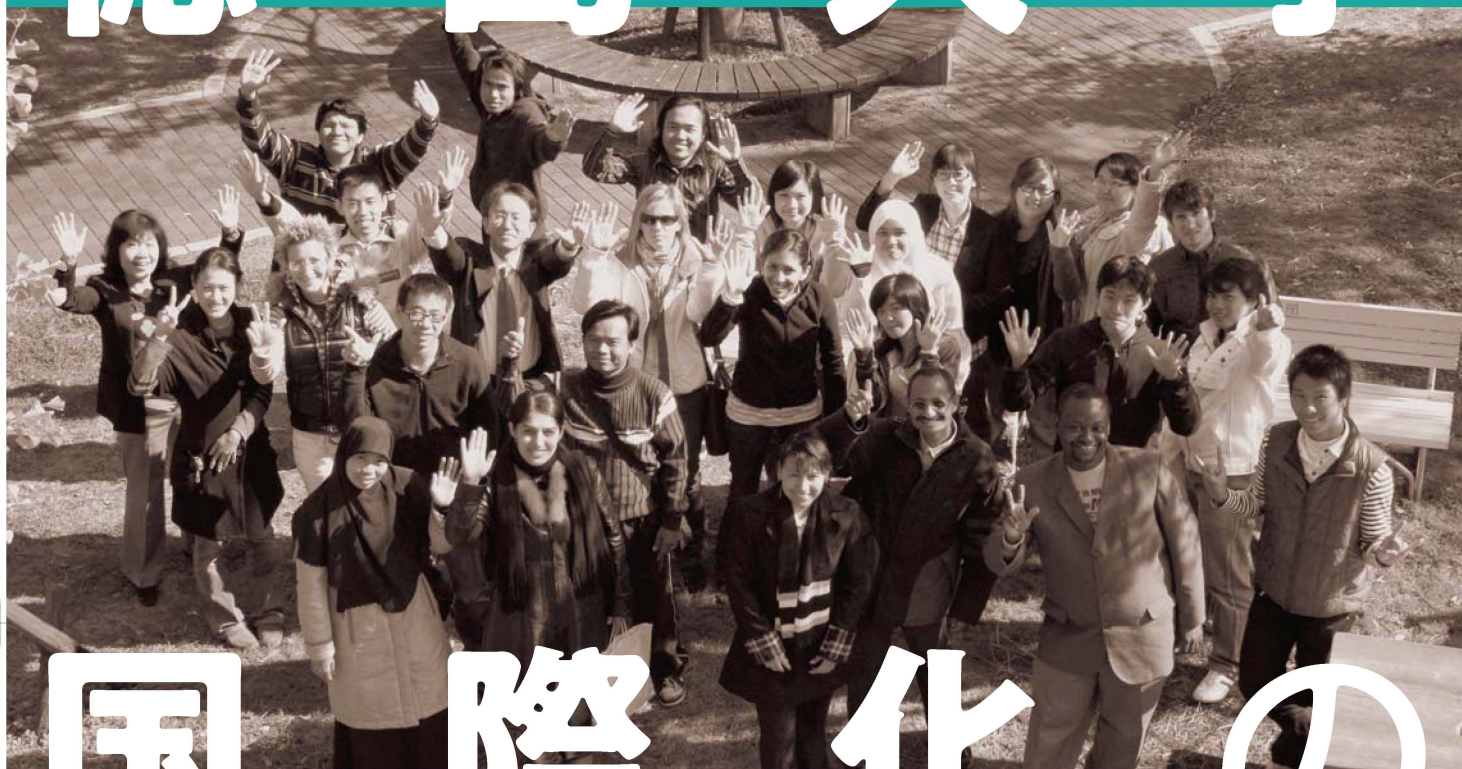


第24回 特別展

徳島大学



国際化の

これまで徳島大学は、国際化を進めるために様々な取り組みを行ってきました。
今回の特別展では、大学や各学部・大学院における国際化の歩みを紹介しています。

歩み

2018年7月18日[水] - 9月21日[金]

徳島大学ギャラリー新蔵
展示室 [日亜会館1F]

平日は9:00-17:00開館 / 土・日・祝日は閉館
問い合わせ: 徳島大学総務部総務課広報室広報係
770-8501 徳島市新蔵町2丁目24番地 Tel.088-656-7021

GALLERIA
SHINKURA

新蔵
SHINKURA



01. 徳島大学 国際化の歴史

年		出来事
1983年	昭和59年	「21世紀への留学生政策に関する提言」にて「留学生10万人計画」が発表される
1984年	昭和60年	「21世紀への留学生政策の展開について」にて「留学生10万人計画」の方向性が発表される
1997年	平成9年	徳島大学国際交流委員会・留学生専門委員会にて「国際交流センター（仮称）」と国際課の設置が構想として提案される
2001年	平成13年	2月 徳島大学留学生総合センター設置検討ワーキンググループを設置
		10月 「留学生支援センター」を学内措置として設置
2002年	平成14年	4月 文部科学省省令施設として「留学生センター」が徳島大学に設置される
		徳島大学大学院 国際環境・予防医学英語特別コース（本学、初の英語コース）を開始
2003年	平成15年	国際連携の諸問題に全学的な観点から対処するために、徳島大学国際連携推進室を設置
2005年	平成17年	3月 第1回 徳島大学国際展開推進シンポジウム「母国で振り返る私の徳島大学留学生時代」を開催
		4月 国際連携推進室が「徳島大学国際化ポリシー」を策定
		文部科学省「平成17年度大学教育の国際化推進プログラム（戦略的国際連携支援）」に「複数学位を与える国際連携大学院教育の設立-協定大学間ネットワークを活用したメジャー・マイナー履修制による実践的教育」（平成17年度～平成20年度）が採択
2006年	平成18年	3月 地域・国際交流プラザ（日亜会館）が竣工
		文部科学省「平成18年度大学教育の国際化推進プログラム（海外先進教育実践支援）」に「国際感覚を育む統合的な医療人教育の推進－多種職医療人の統合的臨床教育指導を統括するクリニカル・エデュケーターの養成取組」が採択
2008年	平成20年	7月 「留学生30万人計画」の骨子が発表
		8月 文部科学省による「大学教育の国際化加速プログラム」への採択を受け、大学院先端技術科学教育部（常三島地区）と統合医療学際教育英語プログラム（蔵本地区）において、それぞれサマースクール、サマープログラムを実施
		11月 「徳島大学卒業留学生同窓会（中国）」を設立
		12月 留学生センターを改組し、「国際センター」を設置
2009年	平成21年	12月 「徳島大学卒業留学生同窓会（韓国）」を設立
2010年	平成22年	4月 国際連携推進室を「国際連携戦略室」に名称を変更
2011年	平成23年	4月 米国シリコンバレーに初の海外オフィスを開設
		6月 モンゴル健康科学大学内に本学海外オフィスを開設
		7月 「卒業留学生同窓会推薦奨学金制度」運用開始
2012年	平成24年	10月 「徳島大学卒業留学生同窓会（モンゴル）」を設立
		8月 総合科学部（ソシオアートアンドサイエンス研究部）がサマープログラムを実施 国際センターがサマープログラム「徳島であおう！」を実施
2013年	平成25年	3月 「徳島大学卒業留学生同窓会（インドネシア）」を設立
		4月 アスパイア奨学金の運用を開始
		11月 「徳島大学卒業留学生同窓会（マレーシア）」を設立
2014年	平成26年	6月 国立台湾科技大学内に「徳島大学国立台湾科技大学教育研究センター」を設置
		9月 マラッカ技術大学（マレーシア）内に「徳島大学－マレーシアマラッカ技術大学（UTeM）アカデミックセンター」（TMAC）を設置
		「地域創生・国際交流会館」が常三島キャンパスに竣工
		「トビタテ！留学JAPAN」第1期生がカンボジアに留学
2015年	平成27年	3月 「徳島大学卒業留学生同窓会（ベトナム）」を設立
		11月 「渡日前入学許可制度」（ベトナム）の運用を開始
2018年	平成30年	4月 「渡日前入学許可制度」（韓国）の運用を開始

02. 海外拠点

徳島大学では、現在、台湾（台北市）の国立台湾科技大学、マレーシア（マラッカ州）のマレーシアマラッカ技術大学（UTeM）の2カ所に海外拠点を、モンゴル（ウランバートル）のモンゴル国立医科大学（旧モンゴル健康科学大学）に海外オフィスを設置し、海外での教育・研究交流や学生交流を行っている。

2014年6月、国立台湾科技大学内に「徳島大学国立台湾科技大学教育研究センター」が設置された。センターの設置は、本学工学部（現理工学部）と国立台湾科技大学工学部及び電気情報学部の交流が起点となっている。現在は、本学理工学部を中心とした共同研究、学生交流の拠点として機能している。

2014年9月には、UTeM内に「徳島大学－マレーシアマラッカ技術大学アカデミックセンター」（TMAC）が設置され、共同教育研究が行われている。翌2015年からは、TMAC Design Workshop を毎年開催しており、本学理工系学生とUTeM学生の学術交流活動が積極的に行われている。

2011年にモンゴル国立医科大学に設置された徳島大学海外オフィスは、各種医療指導・協力に加え、予防医学や遠隔医療・教育でも活動を展開している。現在は、独立行政法人国際協力機構（JICA）による「日本モンゴル教育病院運営管理及び医療サービス提供の体制確立プロジェクト」を実行するための現地オフィスとしても機能している。

今後も海外拠点を開発し、海外展開を推進していく予定である。



TMAC開所式（UTeM）



徳島大学教育研究センター
(国立台湾科技大学)



徳島大学モンゴルオフィス
(モンゴル国立医科大学)

03. 渡日前入学許可制度

優秀な外国人留学生の学部入学を促進するための一方策として、協定を結んだ日本語学校等から推薦された優秀な外国人留学生に対し、母国で学部への入学試験を行い、渡日前に入学許可を行う制度を、2015年（平成27年度）に開始した。

本制度では、出願時の検定料、ならびに入学料と授業料を不徴収としている。必要に応じて学部入学前の6か月間、国際センターが提供する日本語教育等予備教育を受講し、同時に同センターが提供する英語学習支援や日常生活への適応支援も利用することができる。

これまでに、本渡日前入学許可制度により、「ドンズー日本語学校」（ベトナム）から5名の学生を受け入れており、理工学部で3名の学生が、生物資源産業学部で2名の学生が学修している（2018年4月現在）。同校とは2016年1月に覚書を締結しており、今後も広く受入れを進めていくことも計画している。

2018年度には、「時事日本語学院」（韓国）と覚書を締結し、韓国内で本制度に基づく入試を実施することも計画している。

渡日前入学許可制度は、学部レベルでの留学生受入れを推進するうえで、大きな効果があると期待されており、今後は対象国を拡大し、制度の充実を図っていく。



野地学長によるあいさつ
（ドンズー日本語学校にて、ベトナム）



野地学長とドンズー日本語学校長・教員との懇談
（ベトナム）



渡日前入学許可制度
第二期生
勉強風景
（国際センター）



日本語研修コース
修了式
渡日前入学 第一期生
2名も参加
・後列右から2人目
・前列右から1人目
（国際センター）

04. 奨学金制度（留学生対象）

徳島大学では、留学生の学修を経済的な観点から支援し、本学での国際的な学術・教育活動を推進するために、「藤井・大塚国際教育研究交流資金各種奨学金」（以下「藤井・大塚交流資金」）、「徳島大学国際教育研究交流資金」（以下「徳大交流資金」）による奨学金事業を実施している。

「藤井・大塚交流資金」、「徳大交流資金」共に、県内外企業・団体からの寄附により運営されており、それぞれ蔵本地区、常三島地区で学ぶ留学生の学修を支援している。

両資金ともにその歴史は長く、1988年に「藤井・大塚交流資金」が、1989年に「徳島大学交流資金」が創設されて以来、約30年間でのべ1200名以上の本学留学生に対する支援を行っている。毎年、約40名の留学生への支援を継続的に行っており、本学における留学生支援の根幹をなす制度として大きな役割を果たしている。

また、「藤井・大塚交流資金」は2011年から、「徳大交流資金」は2012年から、卒業留学生同窓会が推薦する留学生に対する奨学金事業「卒業留学生同窓会推薦留学生制度」による支援も提供している。



2017年度 奨学金授与式



05. 多文化体験交流会、外国人留学生の卒業・修了を祝う会

徳島大学では、留学生、日本人学生、地域住民との交流を促すために、約20年ほど前から「多文化体験交流会」を行っている。毎年多くの留学生と日本人学生、地域住民が参加し、学内における多文化交流の場となっている。

また、徳島大学を卒業・修了する留学生を対象に、「外国人留学生の卒業・修了を祝う会」を毎年3月に開催している。この会は、卒業・修了する留学生に加え、留学生の家族、日本人学生、地域住民、約200名が参加する大きなイベントとなっている。また、この会場では、本学の国際交流や留学生支援に尽力して頂いた個人や団体を表彰することも同時に行っている。



2017年度 多文化体験交流会



2017年度 外国人留学生の卒業・修了を祝う会



06. 海外留学制度

徳島大学では、本学学生の国際化を支援するために、様々な取り組みを行っている。

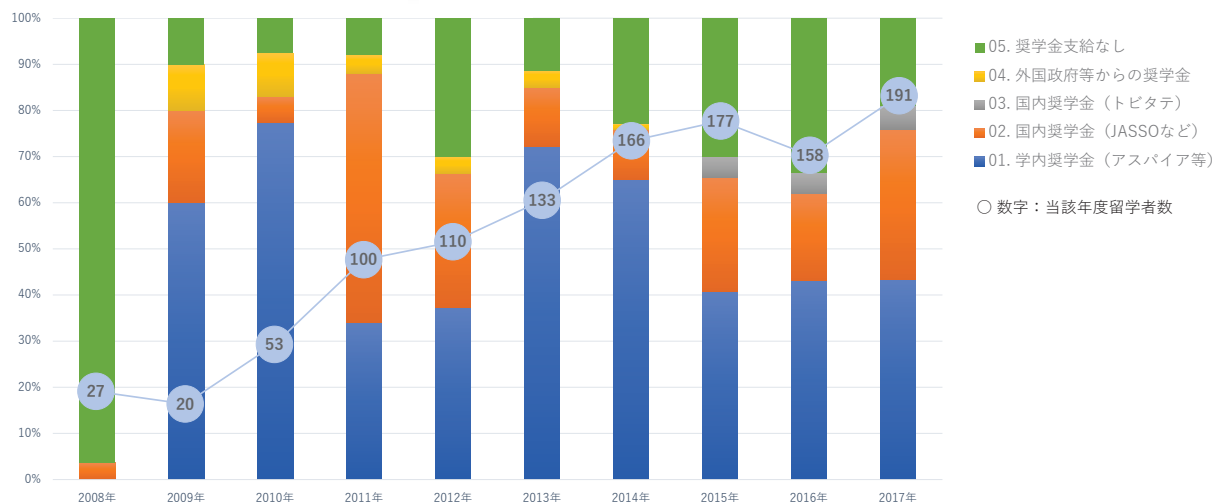
2008年度の海外留学者数は27名であったが、2017年度には191名と、その数は大幅に増加している。この背景には、JASSO（日本学生支援機構）などによる外部からの奨学金や本学独自の給付型奨学金（アスパイア奨学金など）による経済面での支援が整備されてきたことが大きく影響しているものと考えられる。特に、2013年に「アスパイア奨学金」の運用が開始されてからは、安定的に40～50%の学生に対し支援を提供することが可能となっており、JASSOなどの国内奨学金と併せて、より多くの学生の海外留学を経済面から支援している。

また、海外留学プログラムの開発に関しても、国際センター

をはじめ、各部局で精力的に取り組みが進められている。国際センターではカナダ・アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド・中国・韓国への留学を含む、多様な短期海外研修プログラムを実施している。海外での学修を卒業単位としてカリキュラムに組み込む取り組みをしている部局もある。また、海外留学への各種啓蒙活動、危機管理セミナー、事前・事後指導を通して、より多くの学生が安心して留学できるように、充実した支援を提供している。

2014年から開始された官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」も学生に海外留学を意識づける上で大きな後押しとなっている。今後も全学的に海外留学制度の整備を進め、本学学生の国際化を積極的に推進していく予定である。

留学向け奨学金支給状況



ホストファミリーとの写真
モナシュ大学 短期語学研修



カンボジアでの医療ボランティア
本学からのトビタテ第一期生



危機管理セミナー
2017年7月

07. 卒業留学生同窓会、国際展開シンポジウム

徳島大学では、本学を卒業した留学生・研究者を中心に「徳島大学卒業留学生同窓会」を設立している。

最初の卒業留学生同窓会は、2008年に中国で設立され、同年11月に上海で第一回目の設立総会が開催された。その後、2009年には韓国（釜山）、2012年にはモンゴル（ウランバートル）、2013年にはインドネシア（ジョグジャカルタ）とマレーシア（クアラルンプール）、2015年にはベトナム（ハノイ）で同窓会設立総会を開催し、徳島大学卒業留学生同窓会は、合計6カ所となった。2018年6月現在、中国同窓会673名、韓国同窓会95名、モンゴル同窓会50名、インドネシア同窓会38名、マレーシア同窓会82名、ベトナム62名、合計1,000名の卒業生が同窓会員として活動している。

2011年からは「卒業留学生同窓会推薦留学生制度」の運用を開始した。2017年度までに12名の大学院生（常三島 5名、蔵本 7名）がこの制度を利用して入学している。

また、2005年からは「国際展開推進シンポジウムー母国で振り返る私の徳島留学生時代」を毎年開催しており、世界各地で活躍する元留学生をパネリストとして徳島に招聘し、自身の留学体験や帰国後の体験を披露してもらっている。これまでに55名の元留学生を同シンポジウムに招聘した。今後もこれらの同窓会活動を精力的に展開していく予定である。



2008年 卒業留学生同窓会（中国）



2009年 卒業留学生同窓会（韓国）



2012年 卒業留学生同窓会（モンゴル）



2013年 卒業留学生同窓会（インドネシア）



2013年 卒業留学生同窓会（マレーシア）



2015年 卒業留学生同窓会（ベトナム）



2014年 シンポジウムチラシ
当時の卒業留学生同窓会会長（計4名）
を徳島大学に招聘

08. サマープログラム

徳島大学を海外にアピールし、学術交流協定校などで学ぶ優秀な留学生に、徳島大学に興味を持ち、本学に留学してもらうことを目的に、サマープログラムを実施している。

本サマープログラムは、「平成20年度 大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援：交流プログラム開発型）」に、本学が申請した「英語力を基盤とする新国際化教育プログラム—サマープログラムと短期海外派遣による国際相互交流の推進」が採択されたことが起点となった。2008年から2010年までは、ソシオテクノサイエンス研究部（現社会産業理工学研究部）とヘルスバイオサイエンス研究部（現医歯薬学研究部）が、それぞれ常三島地区と蔵本地区でサマープログラム（受入れ）と短期海外研修（派遣）の両方を行っていたが、2011年からは受入のみのプログラムへと変更された。

2012年からは、総合科学部と国際センターも独自のサマープログラムを実施することとなり、ソシオテクノサイエンス研究部、総合科学部、ヘルスバイオサイエンス研究部、及び国際センターが各々の目的に応じたサマープログラムを実施する運びとなった。

2017年度は、合計109名の留学生がサマープログラムに参加した。本プログラムは、参加した留学生と本学日本人学生・留学生が直接交流し、国際理解・異文化理解を深める良い機会となっている。今後も徳島大学を海外にアピールするために、サマープログラムを継続していく予定である。

総合科学部
サマースクール



京都文化体験ツアー 2014年

先端技術教育部
サマープログラム



グループワークの様子 2015年

ヘルスバイオサイエンス
研究部サマープログラム



集合写真 医学部前にて 2011年

国際センターサマースクール
「徳島であおう！」



常三島図書館体験ツアー 2017年



3部局の参加者全員で撮影 2016年

09. 留学生受入れの推移

徳島大学の留学生数は、2011年に発生した東日本大震災以降、若干その人数に減少が見られたが、2017年、2018年にかけて震災前と同じ水準に戻りつつある。2018年5月1日現在、264名の留学生が本学に在籍している。

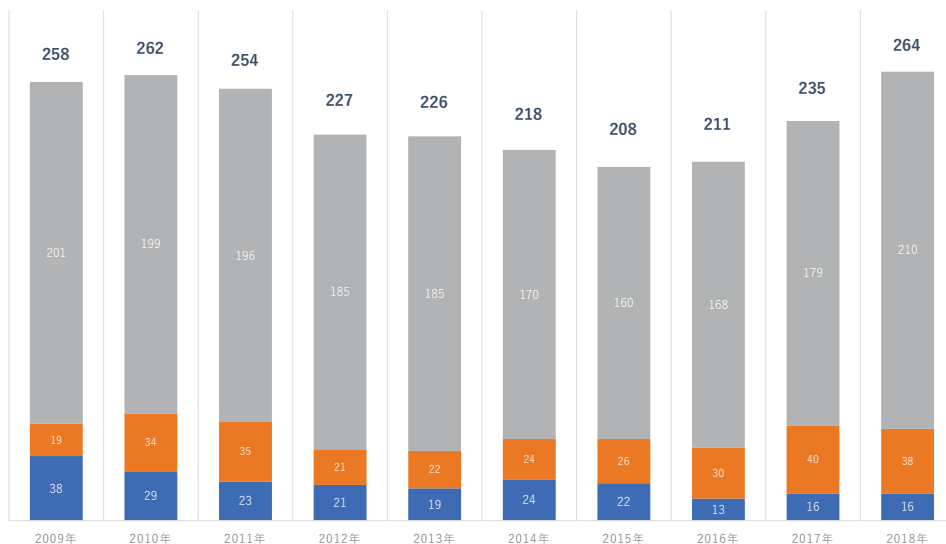
この10年間の留学生在籍状況を見ると、全体の80～90%が大学院又は研究生として学修しており、学部生として留学している留学生は全体の1割から2割となっている。

これまで本学が受入れた留学生の出身国を見ると、中国からの留学生が51%（636人）を占めており、次いで、韓国、マレーシア、バングラデシュ、ベトナム、モンゴル、台湾が続いている。

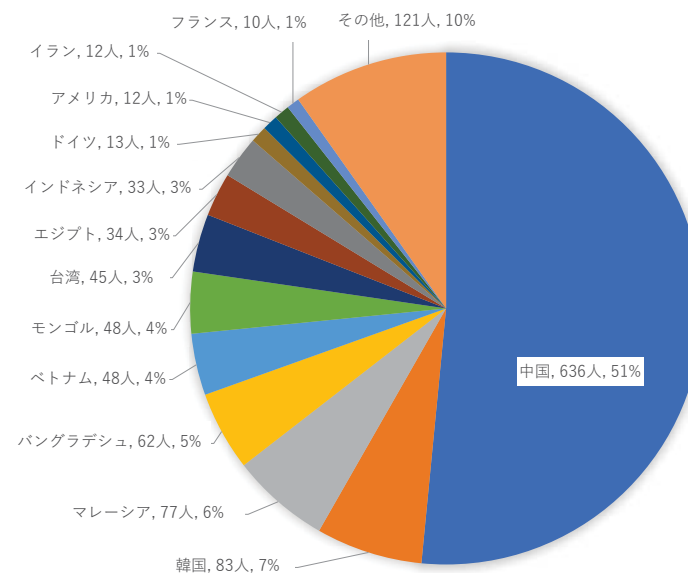


北島町 地域住民
との交流会
2005年
国際交流会館にて

留学生在籍状況



留学生出身国・地域 (1986年から現在まで)



10. 海外留学者数の推移 (2008-2017)

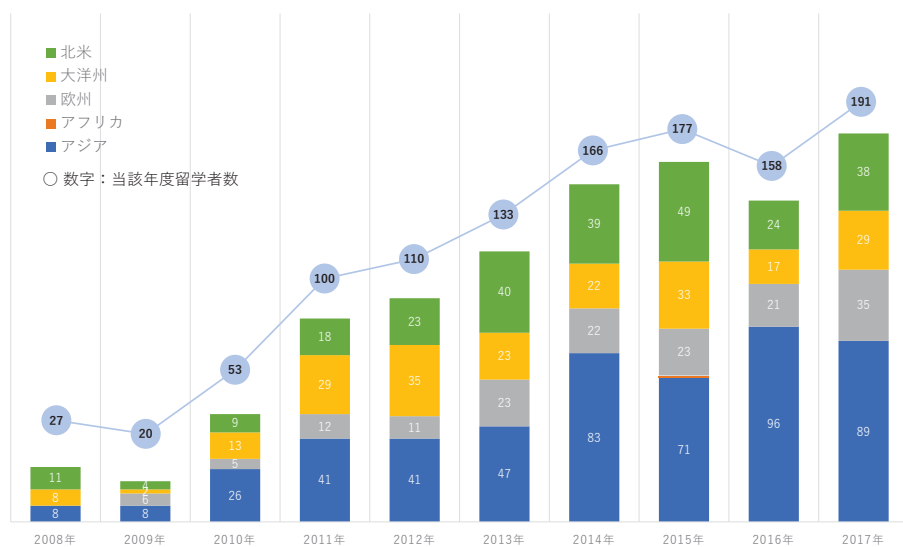
徳島大学では、本学学生の国際化を支援するために、学生の海外留学を積極的に推進している。

2008年度と比較すると、2017年度はその約7倍近い学生（191名）が海外に留学している。この背景には、留学のための奨学金制度ならびに留学プログラムの充実があると考えられる（「05. 海外留学制度」を参照）。留学先の地区別推移を見ると、学生の半数がアジア圏に、残りの半数が北米、大洋州、欧州に留学しており、各年度でさほど大きな違いは見られない。ただ、2017年には学術交流協定校が87校に増加しており（2008年度は39校）、これに伴い個別の留学先も10年前と比較すると格段に多様化している。

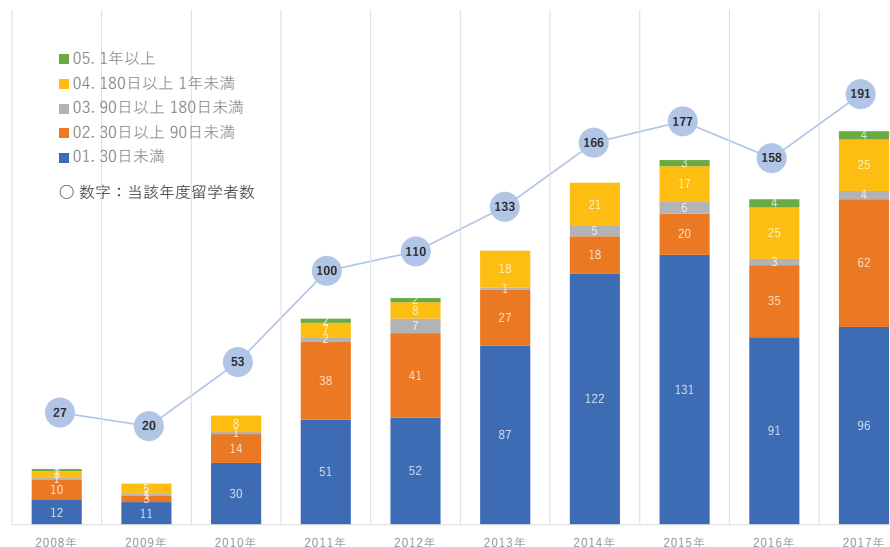
留学期間に関しては、「アスパイア奨学金」が運用され始めた2013年以降、一時的に「30日未満」の短期留学が増えていることが分かる。その後、2016年からは「30日以上90日未満」の留学が増加しているが、180日以上 of 長期間にわたる留学は依然として少ない。

それでも、「180日以上 1年未満」「1年以上」の留学に関しては、2014年以降、毎年20～30名前後の学生を海外に派遣しており、これは2014年から始まった「トビタテ！留学JAPAN」および交換留学制度の充実によるところが大きいと考えられる。今後も全学的に海外留学を積極的に推進し、本学学生の国際化を推し進めていきたいと考えている。

留学者数と留学先の推移



留学期間の推移





11. 国際センターの業務

国際的な教育支援を行う学内共同教育研究施設として2002年に「留学生センター」が設置され、その後、2008年に「国際センター」へと改組された。改組当初は、留学生に対する日本語教育、留学生に対する相談・指導支援、日本人学生の異文化交流支援を担当する「教育・支援部門」、国際展開を推進するための「交流部門」に分かれて業務を行っていたが、現在は、3つの部門（国際交流支援部門、国際教育支援部門、国際協力部門）に分かれ、学内の各部署と協力して、本学の国際化を積極的に推進している。

国際センターによる活動の一部



留学生拠点事業
留学生キャラバン隊



日本文化体験（書道）
地域ボランティアの協力



日本語教育シンポジウム



日本語研修コース
日本人学生が会話練習に参加



世界の料理
地域住民と留学生の交流



日本文化のクラス、グローバルきもの教室
日本人学生、地域住民との交流



留学生が小学校を訪問



スタディー・ツアー
留学生と日本人学生
が共に日本を学ぶ



日本語研修コース
日本人学生とキャンパスツアー



トピタテ申請者のための勉強会



短期留学報告会

総合科学実践プロジェクトJによる 短期海外派遣プログラム

本プロジェクトは、2016年（平成28年）度の開講された総合科学部「実践学習科目」の一つで、2週間から2か月の海外研修等を卒業単位として認定するものである。20を超える体験型の学習プログラムは、語学研修、文化交流、インターンシップ、フィールドワークなどから構成される。

中でも、ネパールの農村での国際協力事業の影響調査をおこなうフィールドワーク、スペイン・クエンカ州での村祭りを通じて村おこし活動を実践する地域創生活動、日本語による言語交流、日本語教育実習などを行なう台湾文化研修などがとりわけ人気が高い。

このプログラムは長期留学への端緒としても位置づけられ、夏期には約20名、春期には約40名の学生が本プログラムにより派遣されている。多様な価値観、文化背景をもつ人々との諸活動が、3年次以降の専攻テーマ、ゼミでの学び、さらには卒業後の生活にも資するものとなることが期待される。



ネパール・ブジュン村



台湾・文化研修



スペイン・カンビーヨ村



ボルトガル・レイリア市での研修

欧米諸大学への学部生長期派遣と 相互交流による多文化理解教育プログラム

1

本プログラムは、2011年（平成23年）度に開始されたアメリカ フロリダ州バレンシア大学とディズニーランドでの海外インターンシップを、欧米諸大学への長期留学を介した多文化理解プログラムとして発展的に統合したものである。

現在は、バレンシア大学をはじめ、ルンド大学（スウェーデン）、ビショップス大学（カナダ）、ラトビア大学（ラトビア）、ザグレブ大学（クロアチア）と、約6か月から12か月の長期にわたる学生交流を展開しており、毎年、約15名程度の学生を受入・派遣している。

本プログラムの特徴としては、日本人学生の長期留学を容易にするために、カリキュラム面での工夫や財政面での支援を幅広く提供している点にある。カリキュラム面では、日本人学生が留学先で取得した単位を帰国後に卒業要件単位として認定する制度を導入しており、留学していても4年間で卒業することが可能となっている。



ディズニー・インターンシップ修了



ディズニー・ワールドで働く



ビショップスの友人たちと



ビショップスでの体験ツアー

欧米諸大学への学部生長期派遣と 相互交流による多文化理解教育プログラム

2

また、経済面での支援も充実しており、日本学生支援機構 (JASSO) からの奨学金や本学学生を対象とした「アスパイア奨学金」などにより、日本人学生の長期留学を支援している。

総合科学部では、アジア圏の交流協定校とも学生交流を展開しており、今後は更に活発に国際的な学生交流を展開していくように考えている。



ルンド大学 (創立1666年) 本部



ザグレブ市の市場



リガ市 (ラトビア) の旧市街



ルンド大学図書館前にて

アジア諸大学への学部生長期派遣と 相互交流による多文化理解教育プログラム

1

本プログラムは、1990年代の半ばに始まった武漢大学（中国）との学術交流を、中国、韓国、マレーシアへの長期留学を介した多文化理解プログラムとして発展的に統合したものである。武漢大学から始まった交流も、最近では、中国の吉林大学、南京大学、寧波大学、韓国の慶北大学、台湾の海南大学、マレーシアのマラヤ大学へと交流が拡大しており、毎年、受入に関しては約15名、派遣に関しては約10名の学生交流を展開している。

本プログラムの特徴としては、欧米諸大学への長期留学プログラム同様、日本人学生の長期留学を容易にするためのカリキュラムならびに財政面での工夫・支援を挙げることができるが、同時に英語圏以外の言語・文化を学ぶことが出来る点もその特徴として挙げることができる。



武漢大学での研修



春節を農村で過ごす



武漢大学で日本を紹介する

アジア諸大学への学部生長期派遣と 相互交流による多文化理解教育プログラム

2

例えば、韓国慶北大学の交換留学生用プログラムでは、英語での授業に加え、非韓国語話者のための韓国語講座も提供されており、日本人、韓国人に加えて、同プログラムで学ぶ他の交換留学生とともに多国籍な環境の中で学修することができるようになっている。

総合科学部では、欧米圏の交流協定校とも学生交流を積極的に展開しており、今後は更に活発に国際的な学生交流を展開していくように考えている。



慶北大学での韓国文化体験



マラヤ大学キャンパス



韓国交流会

韓国の大学との学術交流講演会を中心とした交流事業

徳島大学薬学部では、ソウル大学校薬学大学と東國大学校薬学大学と学術交流協定を締結し、研究および学生交流の両面で交流を継続的に展開している。

ソウル大学校薬学大学とは、1990年（平成2年）度に部局間学術交流協定を締結後、2010年（平成22年）度まで、毎年度、教員を相互に派遣し、学術交流講演会を開催してきた。また、2000年（平成12年）8月には韓国済州島で、2010年（平成22年）12月には兵庫県淡路市で、それぞれ学術交流協定締結10周年と20周年を記念するシンポジウムを開催した。2011年（平成23年）度には、これまでの継続的な交流実績が高く評価され、大学間協定を締結する運びとなった。

東國大学校薬学大学に関しては、ソウル大学校薬学大学と本学薬学部との部局間学術交流協定締結にご尽力頂いたMoon Woo Chun教授が初代学長に就任されたことを契機に、2012年（平成24年）度、部局間学術交流協定を締結した。協定締結後は、毎年2名の教員を相互に派遣し、継続的に学術交流講演会を開催している。今後も継続的な交流を続け、日韓両国での薬剤師ならびに研究者の育成に貢献していきたいと考えている。



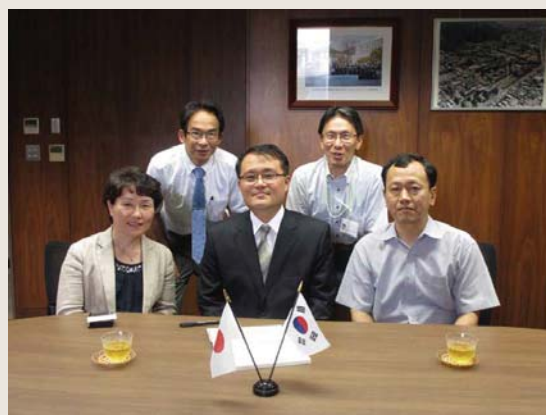
ソウル大学校での学術交流協定更新の様子（2010年〔平成22年〕6月）



徳島大学薬学部—ソウル大学校薬学大学 学術交流協定締結
20周年記念シンポジウム（2010年〔平成22年〕12月）



東國大学校での学術交流協定締結の様子（2012年〔平成24年〕12月）



東國大学校薬学大学長Jungsook Cho教授ら来学
（2013年〔平成25年〕7月）

イタリア・ミラノ大学との 学術交流

徳島大学薬学部では、2010年（平成22年）に初めてミラノ大学から研究者（Prof. Maurizio Popoli）が来訪して以来、同大学との積極的な学術交流を進めている。本格的な学術交流が開始されたのは、2013年（平成25年）に本学で開催された国際フォーラム「薬剤師教育に関する国際フォーラムディスカッション」にミラノ大学からProf. Angelo SalaとProf. Emanuela Corsiniを講師として招聘してからである。それ以降、例えば、国際シンポジウム「地域からはじまる創薬と薬学教育」（2014年（平成26年）開催）や徳島大学脳科学クラスター国際シンポジウム「徳島とイタリアをつなぐ脳科学研究の潮流」（2016年（平成28年）開催）などを通して同大学研究者との共同研究を積極的に進めており、また、大学院博士課程の学生や学部学生をミラノ大学や近隣の病院などに派遣し、共同研究ならびに海外での研修を展開している。

ミラノ大学とは、2014年（平成26年）に学部間協定を締結しているが、上記の交流実績が認められた結果、2017年に大学間協定が同大学と締結されることとなった。今後とも、国際感覚を身に着けた薬学プロフェッショナル養成のために、ミラノ大学との交流を進めていきたいと考えている。



脳科学クラスター国際シンポジウム「徳島とイタリアをつなぐ
脳科学研究の潮流」(2016年[平成28年]7月)



薬学部国際シンポジウム「地域からはじまる創薬と薬学教育」
(2014年[平成26年]1月)



薬学部間交流協定締結(2014年[平成26年]9月)

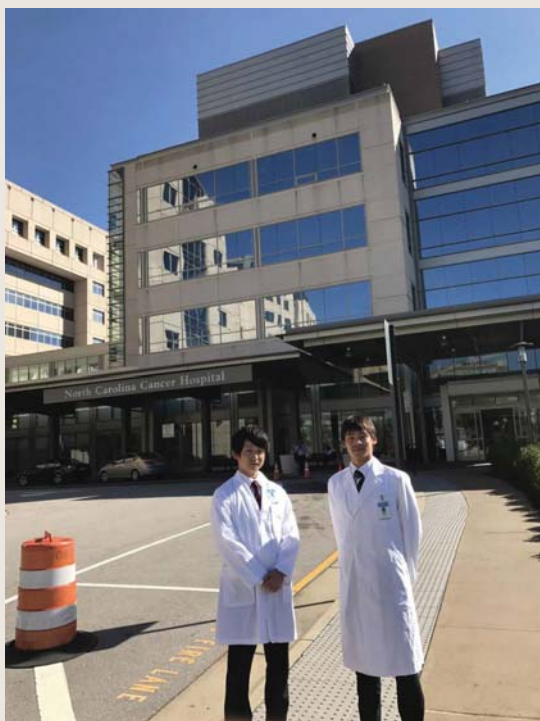
University of North Carolina (UNC)

ビデオカンファレンス

徳島大学薬学部では、2010年（平成22年）度より臨床薬学実務教育学分野が中心となり、米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部とビデオ会議システムを用いた「薬物治療モニタリング」授業を実践している。この双方向ビデオカンファレンスは、薬物治療に主眼を置いた症例検討会であり、徳島大学側の学生は教員指導のもと日本における治療方針の討議を行った後、ビデオ会議システムを用いてUNC薬学部学生と英語による症例検討をリアルタイムで行っている。

現在のところ、毎年平均4回ビデオカンファレンスを開催しており、毎回10-20名の学生が継続的かつ積極的に参加している。本カンファレンスに加え、最近ではUNCとの学術交流協定に基づき1か月ほど学生の派遣も行っている。薬物治療法の学習のみならず、英語でのカンファレンスや留学を通じた異文化経験という観点からも様々な経験を積むことが可能となっており、学生の国際性の涵養に寄与しているものと考えられる。

今後もさらに発展させながら本取り組みを継続し、将来臨床現場で国際的な視点からも活躍できる薬剤師の育成につなげていきたいと考えている。



2016年〔平成28年〕度のUNCへの留学生（薬学部6年生）。



2015年〔平成27年〕度のUNCビデオカンファレンス



2017年〔平成29年〕度のUNCビデオカンファレンス

海外留学プログラム 1

徳島大学医学部は、学生が自ら主体的に考え、問題を解決し、そしてグローバルに活躍できる能力を育むために、各種国際プログラムを展開している。

蔵本キャンパスでは、医学部（医学科、医科栄養学科、保健学科：看護・検査・放射線）、歯学部と薬学部が同敷地にあることから、全人的医療の実践に必要な包括的な環境の下、将来のチーム医療を担う人材の育成に向けた教育・研究活動が展開されている。



McGovern Medical School
テキサス大学 ヒューストン ヘルスサイエンスセンター



ハノーバー医科大学

医学科では、国際化を推進するために、テキサス大学 ヒューストンヘルスサイエンスセンター（米国）、ハノーバー医科大学（ドイツ）、ソウル国立大学校（韓国）、モンゴル国立医科大学（モンゴル）などで海外留学プログラムを実施している。

2008年（平成20年）からテキサス大学での「サマー・リサーチ・プログラム」を、2009年（平成21年）からはハノーバー医科大学と本学との間で学生の受入・派遣を実施しており、これまでに毎年約2～3名の学生を相互に派遣・受入れをしている。



テキサス大学 ヒューストン ヘルスサイエンスセンターラボの教授と同僚と

海外留学プログラム 3

一方、モンゴル国立医科大学でのサマースクールは、他のプログラムと異なり、現地学生との交流やモンゴルの大自然の中での生活・文化体験を重視している点で特徴的である。同大学との交流は2005年（平成17年）に開始されたが、その実績等が認められ、2年後には全学協定を締結している。

2018年（平成30年）12月には、JICA無償資金協力プロジェクトによるモンゴル初の大学附属教育病院が本学と愛媛大学の支援により開設される運びとなっており、その関係性はより深いものとなってきている。

医学部保健学科においても、グローバルな視点から保健医療を探究するために、外国人教員による International Nursing Basic Courseの開講や、フロリダ・アトランティック大学（米国）とメトロポリア応用科学大学（フィンランド）との学生交流、セントポール大学フィリピン（フィリピン）の語学研修プログラムなどを積極的に進めている。



医学部だより2018年【平成30年】4月号より



チンギスハーン記念博物館前にて



モンゴル国立医科大学にて

海外留学プログラム

4

この中でも、メトロポリア応用科学大学とは2011年（平成23年）に締結した交流協定に基づき、毎年数名の学生を受入・派遣しており、両国学生の国際感覚の涵養に大きな役割を果たしている。

本学から派遣する学生（毎年2～5名）にとっては、現地で学ぶ多国籍な学生と共に英語で看護教育を学ぶことから、英語コミュニケーション能力の向上に加え、比較文化学習、看護学に対する理解を深める上で非常に良い経験となっている。

保健学科では、英語による国際的なコミュニケーション能力を養い、専門的看護研究への動機付けを高めるために、セントポール大学フィリピンへの短期研修（約3週間）も積極的に進めている。同研修では、英語学習に加え、病院視察・研修や同大学学生との交流なども体験することができるようになっていることから、参加学生にとって非常に魅力的で学びの多いプログラムとなっている。

今後、医学部では、これらのプログラムを含む国際的な教育・研究活動を通して、国際社会でも活躍できる医療人の養成を進めていくように考えている。



看護シミュレーション教育 メトロポリア応用科学大学



St. Paul University Philippinesとの交流会（2018年〔平成30年〕2月徳島大学）



多国籍の学生と学ぶアクティブラーニング型の授業 メトロポリア応用科学大学

メトロポリア応用科学大学 健康増進学部との学術協定を基軸とした 国際的歯科衛生士教育カリキュラムの開発 1

徳島大学歯学部は2010年（平成22年）8月に北欧フィンランド（図1）の歯科衛生士養成機関である「メトロポリア応用科学大学」と国際的学術協定を締結し、これまでに様々な国際教育プログラムを開発・実践してきた。それらの教育効果は国内外で高く評価されており、2016年（平成28年）8月には同協定をさらに5年間延長して新規プログラムの開発を検討することとなった（図2）。

本協定は以下の3つ柱で構成されている。すなわち①国際的歯科衛生士教育プログラムの開発、②短期交換留学生プログラムの提供、③定期的遠隔ビデオ会議の開催である。①についてはすでに共同で継続可能な国際的歯科衛生士教育プログラムを開発し、現在も進行中である。また②については双方の大学が交換留学生のための短期特別プログラムを提供するもので、本学部としては交換留学生を3か月受け入れ、合同討議（図3）や基礎実習（図4）等のプログラムを提供してきた。



図1
フィンランドの情報



図2 河野学部長による学術協定更新調印式
（2018年〔平成28年〕8月・メトロポリア応用科学大学にて）



図3 交換留学生受け入れプログラム：合同討議の様子
（徳島大学歯学部にて）

メトロポリア応用科学大学 健康増進学部との学術協定を基軸とした 国際的歯科衛生士教育カリキュラムの開発 2

一方、本学部から派遣した留学生はフィンランドにおいて同国の口腔保健事情を学び、臨床実習(図5)や高齢者施設の訪問等のプログラムに参加している。③については定期的に遠隔ビデオ会議を開催し(図6)、共同研究の打ち合わせ、交換留学生プログラムの現状報告等を行っている。今後は両国が抱える共通の課題に対して双方の学生が協力して解決策を策定するプログラムを開発し、グローバル教育をさらに推進する予定である。



図4
交換留学生受け入れプログラム:
基礎実習への参加(徳島大学歯学部にて)



図5 交換留学生派遣プログラム:
臨床実習見学(メトロポリア応用科学大学にて)



図6 遠隔ビデオ会議の様子(徳島大学歯学部側の画面)

インドネシアの歯学部との 双方向交流と共同学術集会の開催

1

徳島大学歯学部、大学院口腔科学教育部は、インドネシア7大学歯学部と学術協定を締結し、各レベルでの双方向交流と定期的に共同学術集会を開くと同時に、とくにガジャマダ大学、ムハマディア大学、ウニスラ大学とは双方向の短期学生留学プログラムを行っている。



【将来展望】

1990年初頭から開始されたインドネシアとの学術交流は、2世代に渡るものになっている。3世代を目指し、より充実した双方向の交流を目指したい。

インドネシアの歯学部との 双方向交流と共同学術集会の開催

2

【学部レベルでの双方向短期学生留学プログラム】



インドネシア学生の徳島大学での活動



日本人学生のインドネシアの大学での活動

【共同学術集会 (International Joint Meeting) の開催】

徳島大学歯学部は、ほぼ2年毎にインドネシアの各大学と共催でIJMを開催し、大学院生・研究者レベルでの学術交流を行っている。これまでに4回開催している。



徳島大学 - 西安交通大学 国際共同研究室設立による 多国間国際共同研究・社会実装の推進

2003年(平成15年)より学術交流協定を締結し、学生及び教員交流、共同研究の推進を図っている。
2017年(平成29年)11月には、徳島大学-西安交通大学 国際共同研究室 (Laboratory on Advanced Laser Measurement Technology for Industrial Applications) を設立し、国際共同研究を加速している。本活動は、企業を含む多国間国際共同研究(日本・中国・マレーシア)に発展している。

また、2018年(平成30年)に両大学主催で国際会議 International Symposium on Advanced Laser Measurement Technology ISALMT 2018を開催し、学術面及び産業面の両面を踏まえた国際連携を推進している。



国際共同研究室(2017年[平成29年]10月28日設立) Laboratory on Advanced Laser Measurement Technology for Industrial Applications



International Symposium on Advanced Laser Measurement Technology ISALMT2018(2018年[平成30年]3月10日 徳島大学)

徳島大学 - 国立台湾科技大学 教育研究センターを軸とした国際交流の推進

2014年(平成26年)6月27日に国立台湾科学技術大学内に徳島大学国立台湾科技大学教育研究センターを設置し、学生及び教員交流、海外インターンシップ、共同研究の推進などの事業に取り組んでいる。本センターの事業活動として、2014年から両大学がサポートを行う共同研究をスタートさせ(2014年(平成26年)-2018年(平成30年):27件)、各種セミナー、研究発表会、国際会議などを開催している。

2015年(平成27年)より両大学主催で開催している国際会議International Forum on Advanced Technologiesは、2018年(平成30年)で4回目を迎え、IFAT2018では、4カ国から105名の参加者により活発な議論が行われた。IFAT2019は台湾にて開始される。



徳島大学国立台湾科技大学 教育研究センター調印式
(2014年[平成26年]6月27日)



徳島大学野地学長 国立台湾科技大学訪問
(2016年[平成28年]5月13日)



4th International Forum on Advanced Technologies IFAT2018(2018年[平成30年]3月8-9日 徳島大学)

マレーシア・マラッカ技術大学 との大学間学術交流協定

2014年(平成26年)9月22日(月曜日)にマレーシア・マラッカ技術大学と本学との間で学術交流協定書調印式を開催した。同大学はマレーシア・マラッカ市に3つのキャンパスを有する理工系大学であり、そのメインキャンパスに徳島大学-UTeMアカデミックセンター(TMAC)を開設した。本学の今後のグローバル教育における東南アジアの重要な拠点として、共同研究やダブルディグリープログラムを介した活発な交流が進められており、社会産業理工学部及び生物資源産業学部を中心とした多様な交流事業の展開が期待されている。



UTeMメインキャンパスでの調印式



TMAC Design Workshop 2018



TMAC Design Workshop 2016



TMAC Design Workshop 2017



徳島大学大学院先端技術科学教育部 国際連携教育開発センター

1

Center for International Cooperation in Engineering Education

2005年(平成17年)度に、文部科学省の大学教育の国際化推進プログラムにおいて、大学院先端技術科学教育部が提案した「複数学位を与える国際連携大学院教育の創設—協定大学間ネットワークを活用したメジャー・マイナー履修制による実践的教育—」が採択され、これを受けて、大学院先端技術科学教育部に国際連携教育開発センター(CICEE)を設置した。工学教育・研究を中心とした学生・教員の国際交流活動の支援を行っている。

先端技術科学教育部 サマー・スクール

毎年、海外協定校からも大学院生・講師が参加し、夏期に2～3週間開催。英語による集中講義・討論・プレゼン。規定に達した徳島大学大学院生は、「国際先端技術科学特論 1」(2単位)の取得が可能。2007年(平成19年)より毎年開催。将来留学することを見据えて参加する学生も多い。



ドローンによる上空撮影 Summer School 2017

グローバル工学教育に関する 国際シンポジウム

International Symposium on Global Engineering Education

ダブル・ディグリー・プログラム(DDプログラム)協定校やユニット事業を展開する協定校の講師による講演、DDコース学生の成果発表を行う国際シンポジウム。2006年(平成18年)より毎年開催。





徳島大学大学院先端技術科学教育部 国際連携教育開発センター

2

Center for International Cooperation in Engineering Education

先端材料の開発と応用に関する国際会議 (AMDP)

International Conference on **A**dvanced **M**aterials **D**evelopment & **P**erformance



CICEEが支援機関として参加した AMDP 2011

1988年(昭和63年)に学術交流協定を締結したオークランド大学(ニュージーランド)との学術交流研究の活性化を目的に1996年(平成8年)にスタート。その後、理工学系を中心とした両校の国際交流校が参加し、先端材料の開発と応用に関する国際会議として3年ごとに開催。

第1回 (1996年 平成8年) オークランド大学(ニュージーランド)

第3回 (2002年 平成14年) 慶北大学校(韓国)

第5回 (2008年 平成20年) 北京航空航天大学(中国)

第7回 (2014年 平成26年) 韓国海洋大学校(韓国)

第2回 (1999年 平成11年) 徳島大学

第4回 (2005年 平成17年) オークランド大学(ニュージーランド)

第6回 (2011年 平成23年) 徳島大学

第8回 (2017年 平成29年) サビトリバイプーレブネ大学(インド)

学術協定校の紹介



ブラジル パラナ連邦工科大学(UTFPR)



インドネシア ムハマディア大学



徳島大学大学院先端技術科学教育部 国際連携教育開発センター

3

Center for International Cooperation in Engineering Education



ダブル・ディグリー・プログラム (Double Degree Program)

徳島大学の学位と外国大学の学位の複数の学位が取得できる教育プログラム

大学院先端技術科学教育部は、海外の13大学と共同してグローバルな高度専門技術者の育成を目的に国際的な工学教育コンソーシアムを構築して、ダブルディグリー大学院工学教育コース (DDコース) を開設しています。

本コースの学生は、13大学のいずれかの外国連携大学大学院及び徳島大学大学院先端技術科学教育部に籍を置き、両大学の指導教員の指導のもと、両大学からの修士または博士の学位の取得を目指します。



徳島大学
TOKUSHIMA UNIVERSITY



JICA 草の根技術協力事業 事業名

「ネパールにおける網膜疾患診療サービス 強化プロジェクト」

我々は30年以上にわたってネパールで眼科医療支援を継続して行なっているが、近年ネパールにおいても失明原因として糖尿病網膜症等の網膜疾患が問題となりつつある。ネパールでは網膜疾患に精通する眼科医は極めて少なく、現地の眼科医師等から要請があり、「網膜疾患診療サービス強化プロジェクト」を立案するに至った。カトマンズとポカラの4ヶ所に網膜疾患診療センターを開設・強化し、徳島大学で研修した4名のネパール人眼科医が指導医となり、ネパールで眼科医師研修、眼科助手研修、オプトメトリスト研修、眼科看護師研修、ヘルスワーカー研修を行い、網膜疾患の診療レベルの改善を試みている。住民教育用のパンフレットを作成し、住民教育を行う。さらに網膜疾患スクリーニングの住民検診（アイキャンプ）を行っている。



2017年[平成29年]4月～5月、第1回眼科医研修風景



2017年[平成29年]7月～8月、第2回眼科助手研修風景



第1回眼科医研修記念撮影



2018年[平成30年]3月、第4回眼科医研修風景

徳島大学協定校一覧

- 【フィンランド】大学間協定（0）、部局間協定（2）
- メトロポリア応用科学大学（国立）歯学
 - メトロポリア応用科学大学（国立）医学
- 【スウェーデン】大学間協定（0）、部局間協定（1）
- ルンド大学（国立）総科
- 【ラトビア】大学間協定（0）、部局間協定（2）
- ラトビア農業大学外国語学部（国立）総科
 - ラトビア大学人文社会科学部（国立）総科

【中国】大学間協定（9）、部局間協定（9）

- ◆ 哈爾濱工業大学（国立）理工
- ◆ 武漢大学（国立）総科、理工
- ◆ 吉林大学（国立）総科、先端酵素
- ◆ 西安交通大学（国立）総科、理工
- ◆ 南通大学（国立）先端酵素、歯学、理工
- ◆ 北京郵電大学（国立）理工
- ◆ 同濟大学（国立）歯学、理工学研究部
- ◆ 四川大学（国立）理工、歯学
- ◆ 南京大学（国立）総科、先端酵素
- 中国医科大学口腔医学院（国立）歯学
- 復旦大学国際文化交流学院（国立）総科
- 大理学院薬学院（公立）薬学
- 上海交通大学医学院附属第九人民医院（国立）歯学
- 天津医科大学薬学院（公立）薬学
- 北京航空航天大学 自動化学科電気工程学院（国立）理工
- 大連理工大学ソフトウェア学院、研究生院（国立）理工、先端技術科学教育部
- 中国科学院広西植物研究所（国立）薬学、薬科学教育部
- 華東大学外国語学院（国立）総科

【モンゴル】大学間協定（1）、部局間協定（0）

- ◆ モンゴル国立医科大学（国立）医学、歯学、薬学

【韓国】大学間協定（4）、部局間協定（7）

- ◆ 慶北大学校（国立）総科、歯学
- ◆ 韓国海洋大学校（国立）総科、理工
- ◆ ソウル国立大学校（国立）医学、薬学
- 時事日本語学院（私立）国際センター、理工、生物資源
- 東義大学校大学院（私立）理工
- 朝鮮大学校歯科大学（私立）歯学
- 延世大学校バイオメディカル・エンジニアリング研究部（私立）医学、栄養生命科学教育部
- 延世大学校スペース・バイオサイエンス研究部（私立）医学、栄養生命科学教育部
- 東國大学校薬学部（私立）薬学
- 東亜大学校考古美術史学科（私立）埋蔵文化財調査室
- 韓国外国語大学人文学部（私立）総科

【カナダ】大学間協定（1）、部局間協定（2）

- ◆ トリニティウエスタン大学（私立）国際センター、総科
- ビショップス大学（私立）総科
- プリティッシュコロンビア大学薬学部（国立）薬学、薬科学教育部

【台湾】大学間協定（1）、部局間協定（4）

- ◆ 国立台湾科技大学（国立）理工
- 南台科技大学工学部（私立）理工
- 国立嘉義大学人文芸術学院（国立）総科
- 青達科技大学人文社会学院（私立）総科
- 開南大学人文社会学院（私立）総科

【フィリピン】大学間協定（0）、部局間協定（1）

- セントポール大学フィリピン（私立）医学、保健科学教育部

【タイ】大学間協定（1）、部局間協定（1）

- ◆ キングモンクット工科大学 トンブリ校（国立）理工
- プリンソボンクラ大学看護学部（公立）医学、保健科学教育部

【ベトナム】大学間協定（4）、部局間協定（1）

- ◆ ドンズー日本語学校（私立）国際センター、理工、生物資源、総科
- ◆ ベトナム国立栄養院（国立）医学
- ◆ ベトナム国立農業大学（国立）理工、生物資源
- ◆ ダナン大学（国立）国際センター、理工、生物資源
- ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学（国立）総科

【アメリカ】大学間協定（3）、部局間協定（2）

- ◆ フロリダアトランティック大学（公立）総科、医学、理工
- ◆ テキサス大学ヒューストンヘルスサイエンスセンター（公立）医学、歯学
- ◆ 南イリノイ大学（公立）国際センター、総科
- ノースカロライナ大学チャペルヒル校エシエルマン薬学部（公立）薬学
- コロラド大学ボルダー校（公立）理工学研究部

【ブラジル】大学間協定（1）、部局間協定（0）

- ◆ パラナ連邦工科大学（公立）理工、生物資源

【オーストラリア】大学間協定（1）、部局間協定（0）

- ◆ モナシュ大学（公立）先端酵素、医学、歯学

【ニュージーランド】大学間協定（1）、部局間協定（0）

- ◆ オークランド大学（国立）医学、理工

【ネパール】大学間協定（0）、部局間協定（1）

- トリバン大学医学部（国立）医学

【イタリア】大学間協定（1）、部局間協定（0）

- ◆ ミラノ大学薬学部（公立）薬学、生物資源

【スイス】大学間協定（1）、部局間協定（0）

- ◆ パーゼル大学（国立）医学、先端酵素

【ドイツ】大学間協定（1）、部局間協定（1）

- ◆ ハノーバー医科大学（国立）医学、歯学
- ラインマイン応用科学大学工学部（国立）理工

【フランス】大学間協定（1）、部局間協定（1）

- ◆ ボルドー大学（国立）先端技術科学教育部
- トゥールーズ工科大学（国立）理工

【ポルトガル】大学間協定（0）、部局間協定（1）

- レイリア工科学院（国立）総科

【クロアチア】大学間協定（0）、部局間協定（2）

- ザグレブ大学人文社会学部（国立）総科
- ザグレブ大学クロアチア研究学部（国立）総科

【エチオピア】大学間協定（1）、部局間協定（0）

- ◆ ゴンダール大学（国立）医歯薬学研究部、理工学研究部

【インドネシア】大学間協定（2）、部局間協定（4）

- ◆ ガジャマダ大学（国立）医学、歯学、総科
- ◆ ムハマディア大学（私立）歯学、理工、医学
- ハントゥア大学歯学部（私立）歯学
- スルタングニスラミク大学歯学部（私立）歯学
- ハサヌディン大学歯学部（国立）歯学
- スマトラ・ウタラ大学薬学部（国立）薬学

【マレーシア】大学間協定（5）、部局間協定（0）

- ◆ マレーシアサイエンス大学（国立）歯学、医学
- ◆ マレーシアマラッカ技術大学（国立）理工
- ◆ マレーシア工科大学（国立）総科、医学、理工
- ◆ マレーシア国民大学（国立）理工
- ◆ マラヤ大学（国立）理工、総科

【インド】大学間協定（1）、部局間協定（4）

- ◆ サビトリバイ・プーレネ大学（公立）総科、理工、教養教育部
- ◆ ドクター・ババサヘブ・ベドカル・マラツワダ大学理学部（公立）理工
- ノースマハラシュトラ大学（公立）先端技術科学教育部
- パラディビドゥヤ・ビス・ディーム・大学工学部（私立）理工
- ジャダプル大学法学、経営学及び学際から構成される学部（公立）薬学

【凡例】

- ◆ 大学間協定
- 部局間協定

2018.6.1.現在
[大学間協定:40校、
部局間協定:47校]